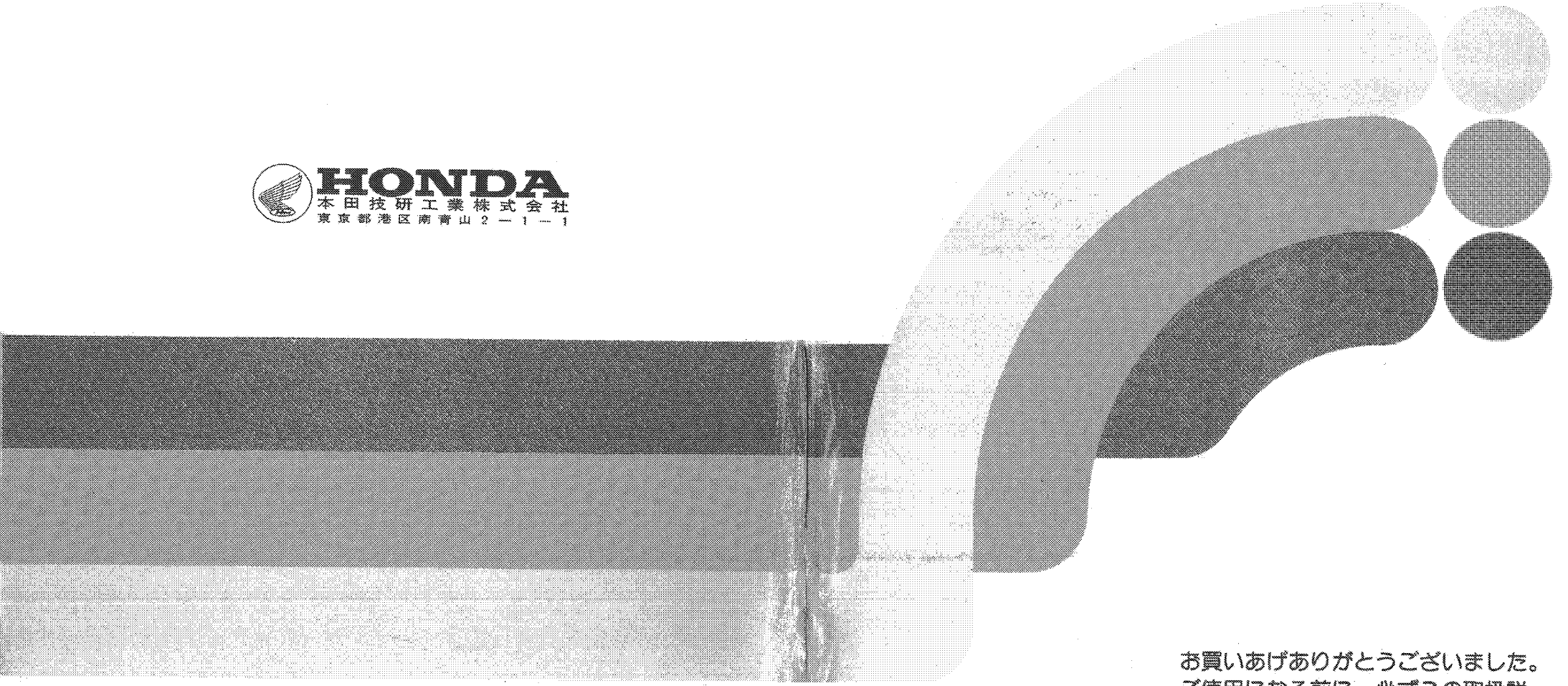
刈まる
かりまる

ホンダ"草刈機
UM21
取扱説明書



HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

お買いあげありがとうございました。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

30VA8602
00X30-VA8-6021

㊐ Ⓝ 3008805

お買いあげありがとう ございました

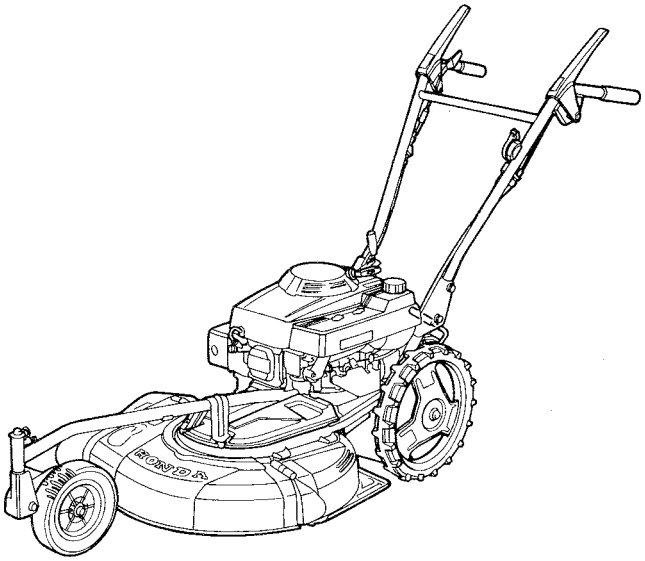
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店または下記の**〈ご相談窓口〉**にお気軽にお申しつけください。

〈ご　相　談　窓　口〉

名　　称	電話番号	郵便番号	所　　在　　地
本田技研工業株式会社 お客様相談室	03(423)4211	107	東京都港区南青山2―1―1
本田技研工業株式会社 お客様相談室　北海道	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町2条10―2―29
本田技研工業株式会社 お客様相談室　仙　台	022(288)6561	983	宮城県仙台市六丁の目西町1―10
本田技研工業株式会社 お客様相談室　名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通4―22
本田技研工業株式会社 お客様相談室　大　阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町2―12
本田技研工業株式会社 お客様相談室　九　州	092(962)2466	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

・所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。ホンダ草刈機 UM21(刈丸)を安全快適にお使いいただくために正しい取り扱いをしなければなりません。



なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう ……4

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう ……8
エンジン回転調整レバー ……10
刈刃クラッチ レバー ……10
走行クラッチ レバー ……11
燃料コック レバー ……11
刈取り高さ調整レバー ……12
ハンドル高さ調整ボルト ……12
車輪固定ピン ……12
刈刃カバー開閉レバー ……13
変速レバー ……13

エンジンをかける前に点検しましょう ……14
ガソリンの点検 ……14
エンジン オイルの点検 ……15
空気清浄器(エア クリーナ)の点検 ……16
刈刃の点検 ……17
リヤ プロテクタ ラバー、サイド プロテクタ ラバーの点検 ……19
各部の締付け点検 ……20
各部の清掃点検 ……20

エンジンのかけかた ……21

運転操作のしかた ……23
1．エンジン始動 ……23
2．運転操作 ……23
3．刈取り作業 ……25

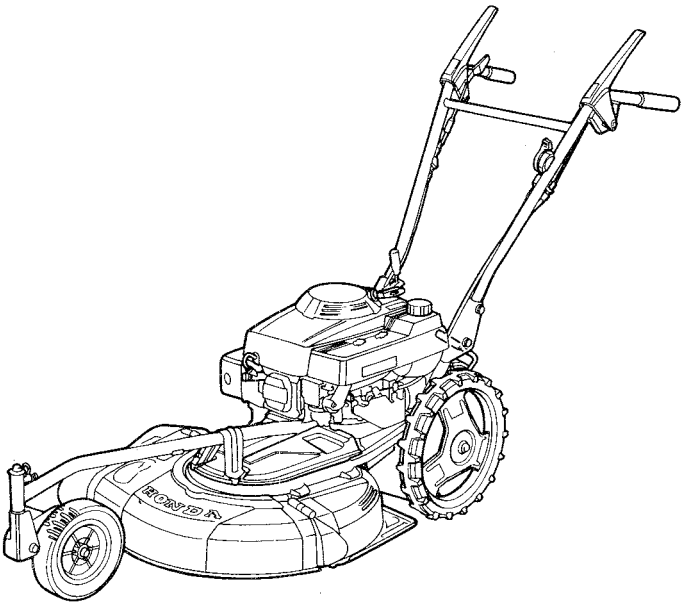
エンジンのとめかた ……30

定期手入れを行いましょう ……31
作業前点検 ……31
定期点検 ……32

やさしい点検・整備 ……33
携帯工具 ……33
エンジン オイルの交換……34
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃……36
点火プラグの点検、清掃 ……37
刈刃の交換、修正 ……38
刈取クラッチ ワイヤの点検、調整……42
走行クラッチ ワイヤの点検、調整……43
ハウジング ワイヤの点検、調整……44
長期間使用しない時の手入れ ……45
故障のときは ……47
主要諸元 ……48
商品受領書
保証書

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう

草刈機の取り扱いは正しく。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な草刈作業のために次のことを必ずお守りください。



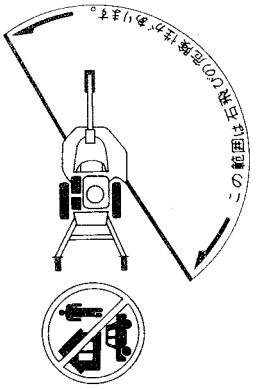
●安全のために知っておきたいこと

★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。

★衣類や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないよう作業に適した服装及び防護メガネ、安全靴などを用いて作業を行ってください。

★草刈作業範囲内に石等の異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。人身及び物損事故が起きないよう作業時には十分注意してください。特に左前方から右方向180°の範囲内は注意してください。





★刈刃の点検、清掃及び整備する時はエンジンを停止し、必ず点火プラグ キャップを外してください。

●作業を始める前に

★ホンダが推奨する作業前点検は必ず行ってください。

★ガソリン補給時、必ずエンジンを停止してください。〈火気厳禁〉

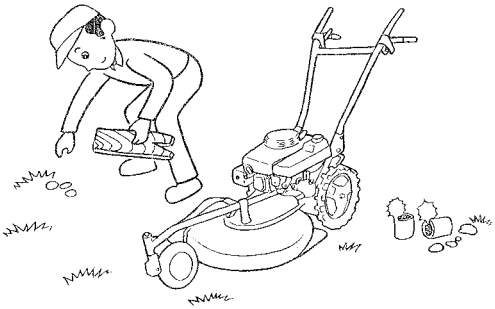
・エンジン(マフラ等)は冷えていますか。

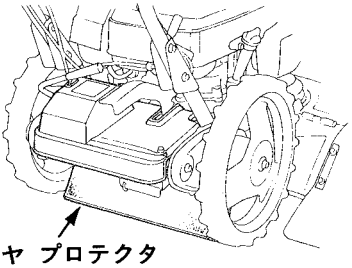
・ガソリンはこぼさないよう注意してください。もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。

★ベルト カバーを外して、エンジンを始動させないでください。

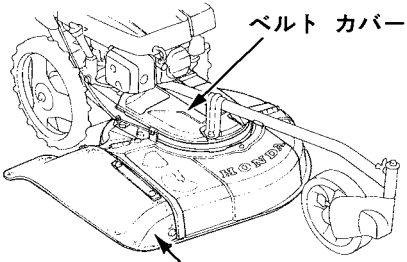
★放出物による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れ等のすべての異物を取り除いてください。

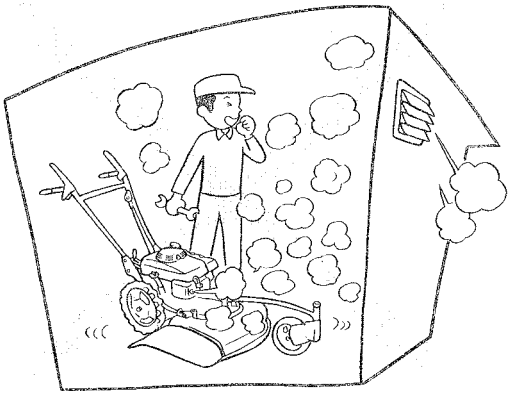
★防護装置(サイド プロテクタ ラバー、リヤ プロテクタ ラバー、ベルト カバー等)は、正しく取り付けられているか確認してから作業してください。





リヤ プロテクタ
ラバー





★屋内でエンジンをまわさないでください。

●作業中の注意

★草刈作業は日中か十分な照明の下で行ってください。

★作業中は人や動物等を周辺に近づけないでください。

もし、人や動物等が近づいたら作業を停止してください。又作業している周辺に人家や車等がある場合は、作業周辺を防護シート等でおおってから作業を行ってください。

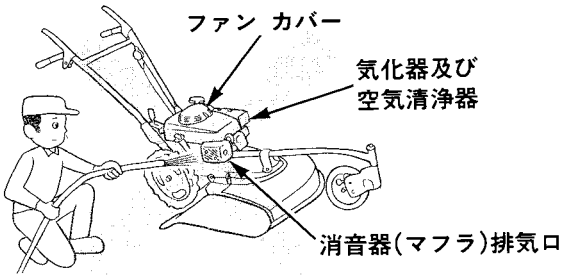
★作業中は足もとに注意してハンドルをしっかり持ち、けっして走らないでください。

★移動する時は必ず刈刃を停止して移動させてください。

★エンジンに草、木の葉等を堆積させないでください。これら可燃物が堆積すると火災の原因になったり、草刈機を破損する場合があります。
★エンジン運転中は刈取り高さの調整はしないでください。
★斜面での草刈りは上下方向でなく、横方向(等高線方向)に行ってください。また20°以上の過度の斜面では草刈機を使用しないでください。
★方向転換をする場合は、刈刃クラッチ レバーをはなして、刈刃を停止して行ってください。
★作業中障害物に当った時はすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するため点火プラグ キャップを点火プラグから外し、損傷を調べてください。異常があればすぐに修理してください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

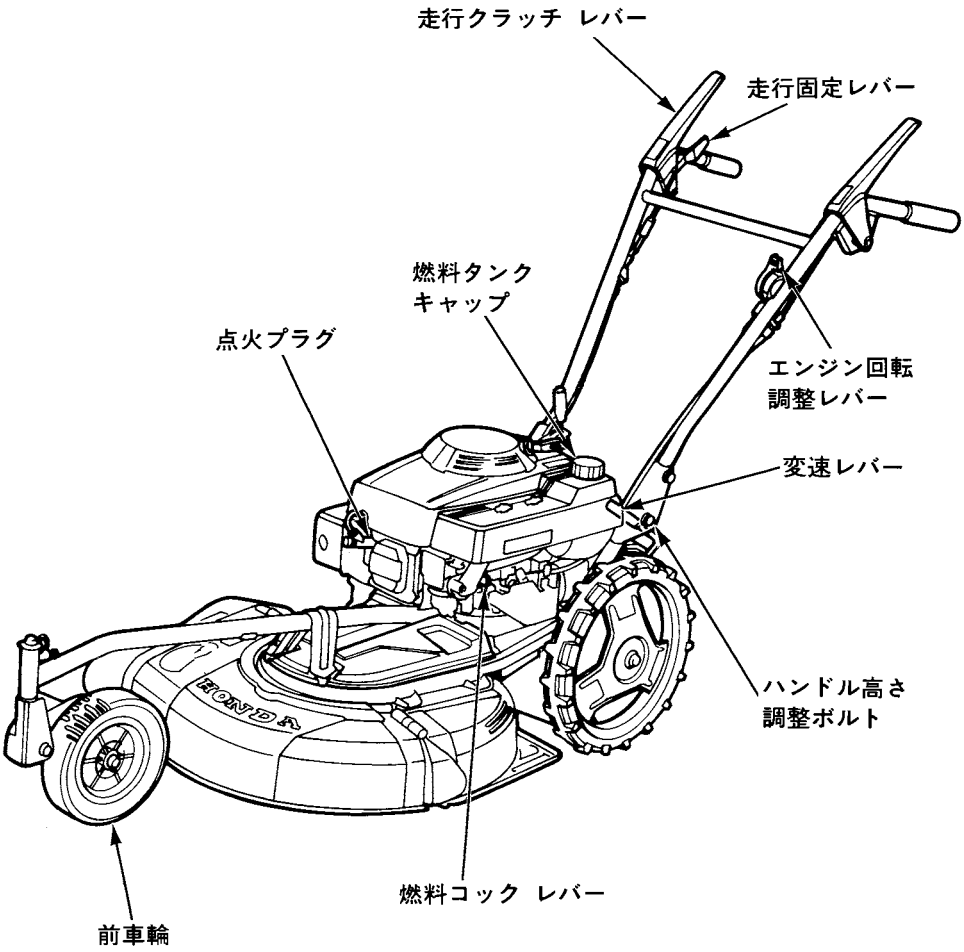
●作業が終ったら

★草刈機を移動する時は必ず刈刃を停止させ、刈取り高さを最上段にして移動させてください。
★エンジンを停止させ、冷えてから各部の清掃を十分行ってください。特にファン カバー、空気清掃器(空気取入口)、排気系、気化器コントロール リンク廻り、ベルト カバー内に付着した草やホコリを取り除いてください。
★気化器及び空気清浄器、マフラ排気口に水をかけないでください。特に後ろに倒しての放水は避けてください。

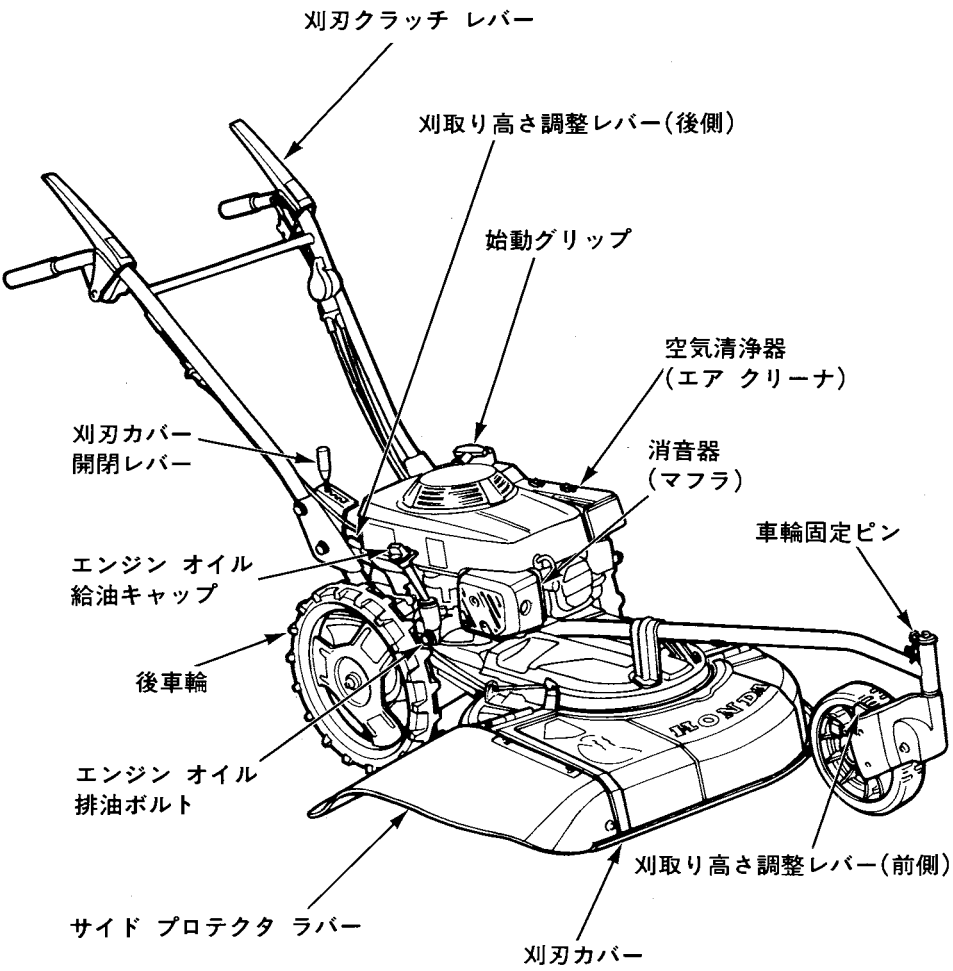


★作業後はカバー等をかけるか、屋根のある場所に保管してください。
★次の作業のために機械の点検、整備を行いましょう。(P.31作業前点検参照)
★トラック等への積降し時は、燃料コック レバーを"止"にしてください。
★運搬時には転倒や落下しないよう、確実に固定してください。

各部の名称と取り扱


走行クラッチ レバー
走行固定レバー
燃料タンク
キャップ
点火プラグ
エンジン回転
調整レバー
変速レバー
ハンドル高さ
調整ボルト
燃料コック レバー
前車輪

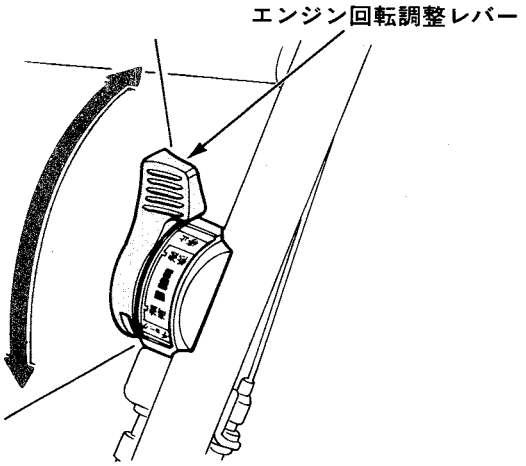
いをおぼえましょう


刈刃クラッチ レバー
刈取り高さ調整レバー(後側)
始動グリップ
空気清浄器
(エア クリーナ)
刈刃カバー
開閉レバー
消音器
(マフラ)
車輪固定ピン
エンジン オイル
給油キャップ
後車輪
エンジン オイル
排油ボルト
刈取り高さ調整レバー(前側)
サイド プロテクタ ラバー
刈刃カバー

エンジン回転調整レバー

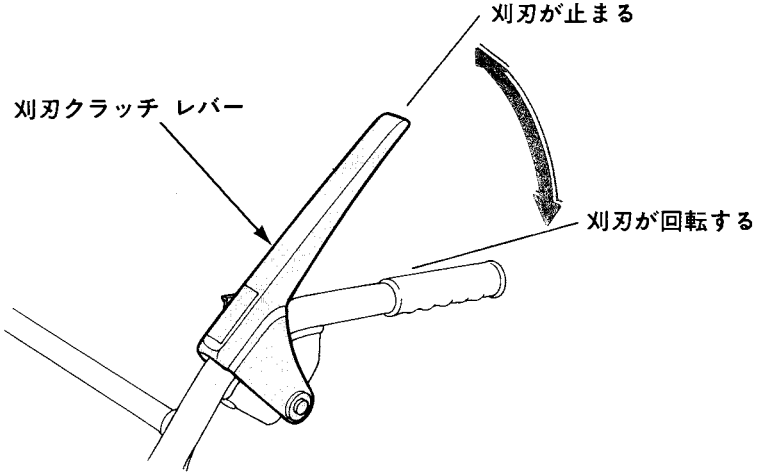
エンジン回転を調整するものです。

エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



刈刃クラッチ レバー

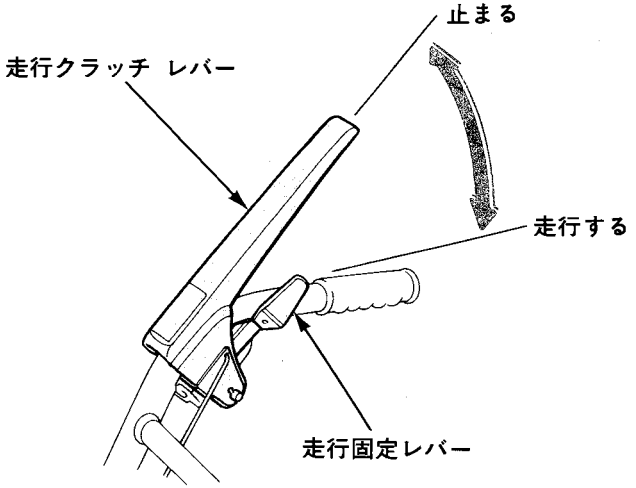
刈刃クラッチ レバーを握ると刈刃が回転し、はなすと刈刃は止まります。



走行クラッチ レバー

走行クラッチ レバーを握ると走行し、はなすと止まります。

固定レバー操作で走行クラッチ レバーを固定することができます。(24頁参照)

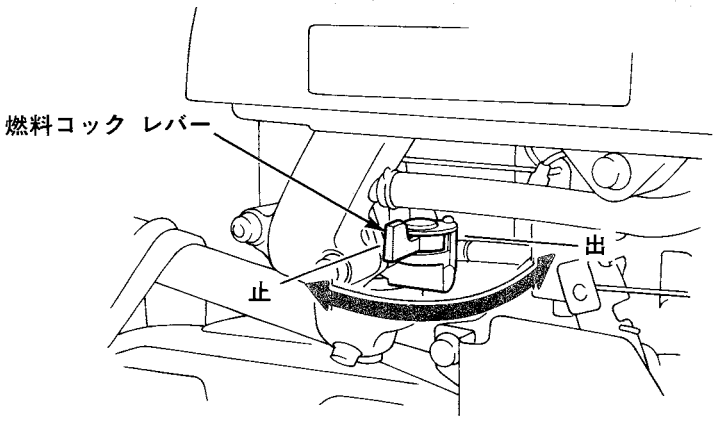


燃料コック レバー

燃料タンクから気化器までの燃料通路を開閉する時に操作します。

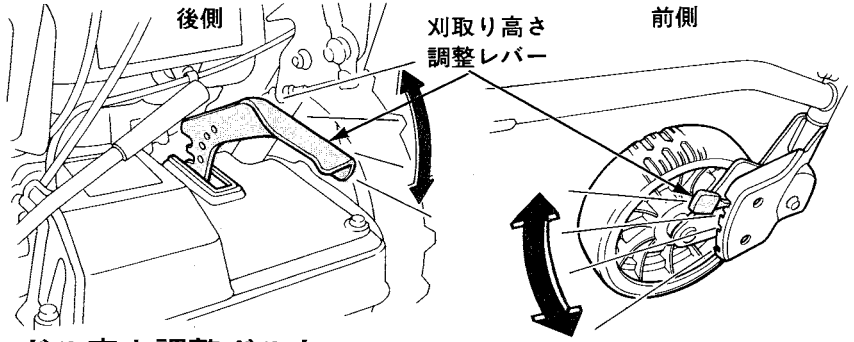
操作は確実に**"止""出"**の位置に合わせてください。

注意 ・運搬時、保管時はレバーを"止"の位置に合わせてください。"止"にしないと燃料がもれることがあります。



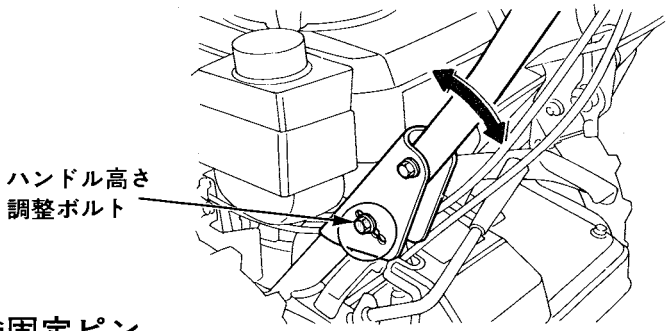
刈取り高さ調整レバー

刈取り高さを調整するときに操作します。(25頁参照)



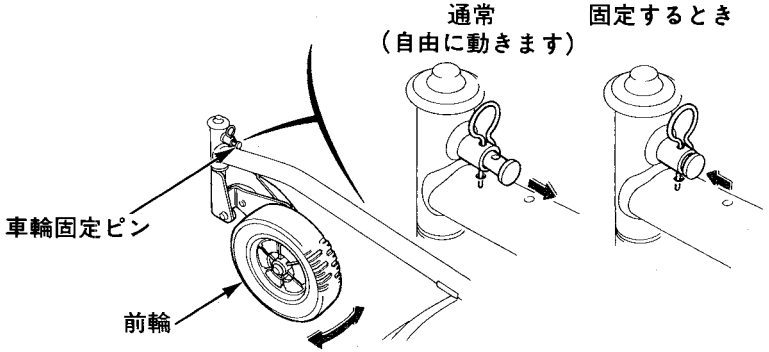
ハンドル高さ調整ボルト

ハンドル高さを調整する時に操作します。(26頁参照)



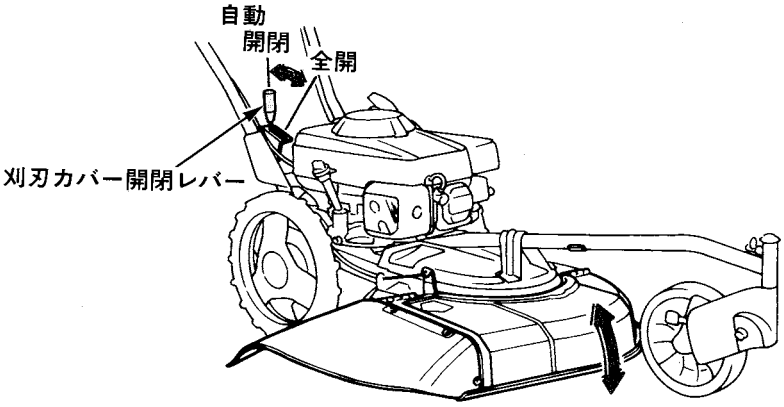
車輪固定ピン

前輪を固定するときに使用します。(28頁参照)



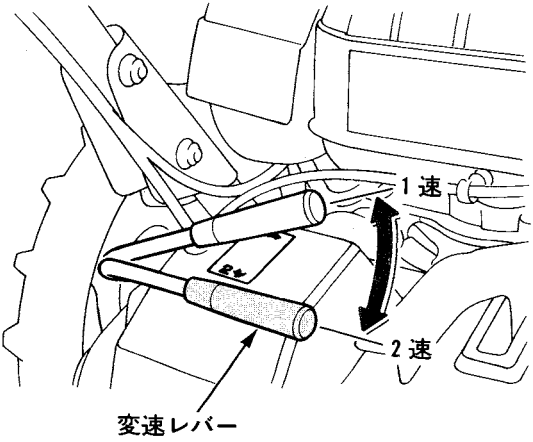
刈刃カバー開閉レバー

刈刃カバーを開閉するときに操作します。(26頁参照)
通常は**"自動開閉(閉)"**にしてご使用ください。



変速レバー

草刈機の前進車速を変更する時に操作します。
変速は２段です。



エンジンをかける前に点検しましょう

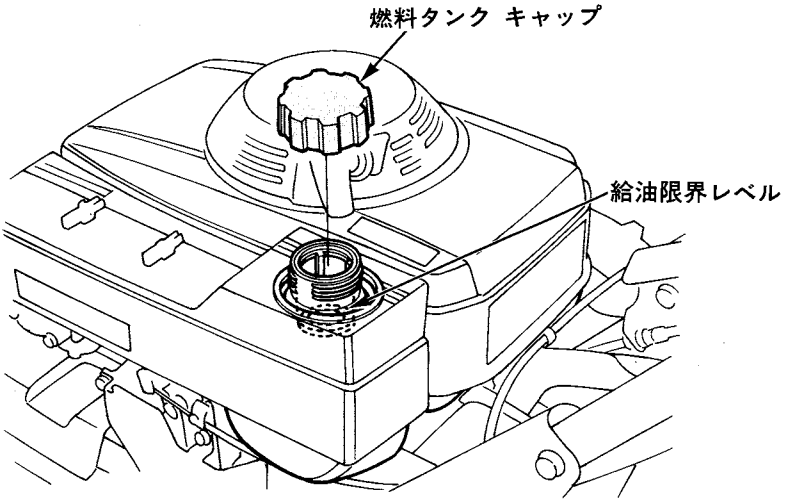
★点検は平坦な場所で草刈機を水平にし、エンジンをとめて点火プラグ キャップを外して行ってください。

ガソリンの点検

点検

燃料タンク キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)までガソリンがあるか点検します。

少ない場合は補給してください。



補給

- キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)まで補給してください。

  使用ガソリン：無鉛(レギュラ ガソリン)

  タンク容量：2.0ℓ

- 補給後、キャップを完全に締付けてください。

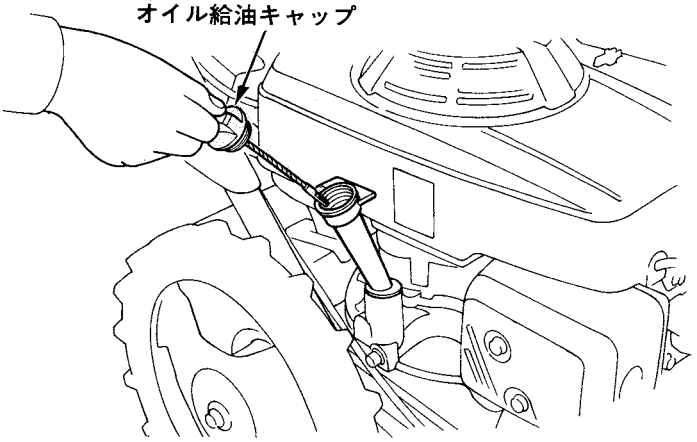
注意

- 火気厳禁
- 必ずエンジンをとめて補給してください。
- ガソリンはこぼさないでください。もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。
- 草刈機に貼られている注意ステッカにしたがってください。

エンジン オイルの点検

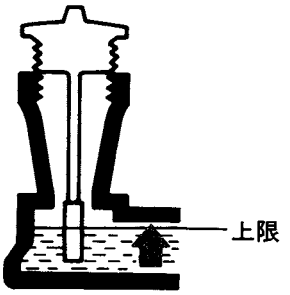
点検

オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。
油面が下限に近い時には、上限までオイルを補給してください。
汚れや変色が著しい場合は交換してください(交換時期、方法は34頁参照)。



補給

- キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。
- 推奨オイル：ホンダ純正
  ①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)
  ②ウルトラ-U〈2輪車用〉(SAE10W-30)
  またはAPI分類SE、SF級相当のSAE 10W—30オイルをご使用ください。



注意

- 低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラ—U〈2輪車用〉SAE10W—30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時(気温－15℃以下)では、API分類SE、SF級相当のSAE 5 W—30のオイルをご使用ください。
- キャップは、手で確実に締付けてください。
- 締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

空気清浄器(エア クリーナ)の点検

〈点検〉

1．蝶ナットをゆるめ、空気清浄器カバーを取外します。

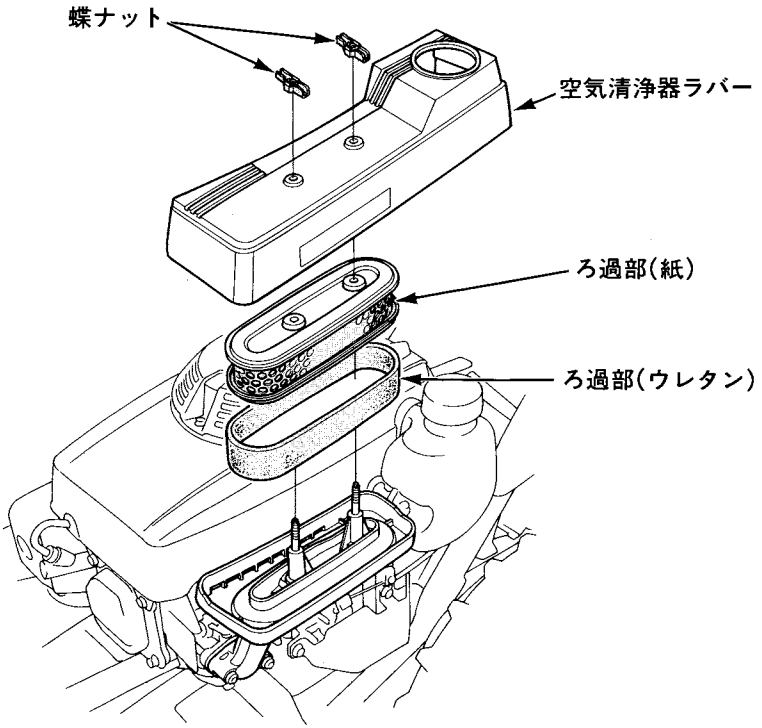
2．ろ過部(ウレタン、紙)の汚れを点検します。

2．汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。

(清掃方法は36頁参照)

注意

・空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
・空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。



刈刃の点検

注意

・作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。
・作業時に縁石や木の根などに刈刃が当り、曲りや欠損が生じていないか点検してください。
・刈刃の摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、運転者や附近に居る人に当ったりして、重大な人身事故を招くことがあります。

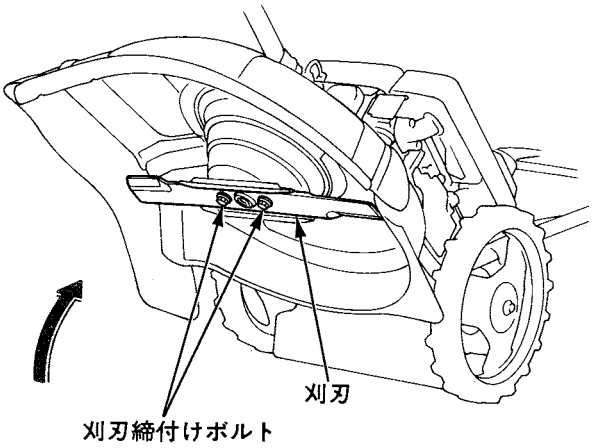
～1. エンジンを停止し、点火プラグ キャップを外します。

～2. 燃料コック レバーを“**止**”にします。

～3. 刈取り高さ(後側)を最上段にして、草刈機を後側へ傾斜させてください。

注意

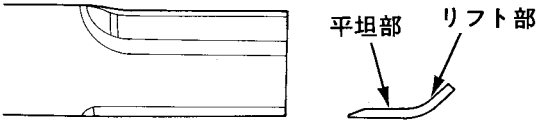
・この点検は、１人では行わないでください。
必ず２人で行いハンドルをしっかり支えてもらい前部が落下しないよう注意してください。
・長時間傾斜させたまま放置しないでください。始動性が悪くなる事があります。



～4.刈刃締付けを確認してください。

～5.刈刃の割れ、曲り、摩耗を点検します。

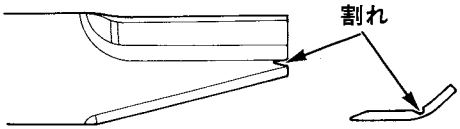
新品



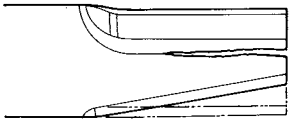
下図のように異常な状態になっていたら交換してください。(38～41頁参照)

交換

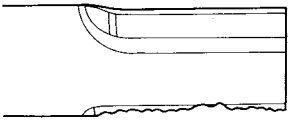
割れ



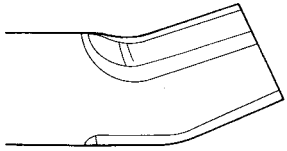
注意 特にリフト部に割れが発生すると、刃先が切損して飛び出し大変危険です。絶対に使用しないでください。



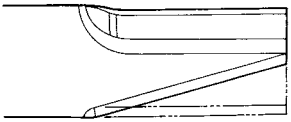
欠損



曲り



摩耗

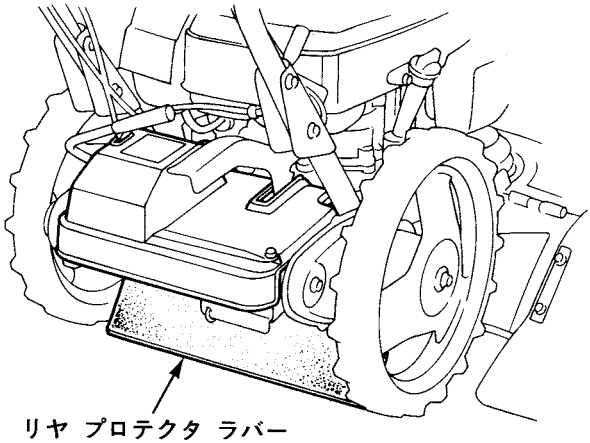


・乾燥した土や砂を含んだ場所で使用すると刈刃の摩耗が早い為頻繁に点検してください。

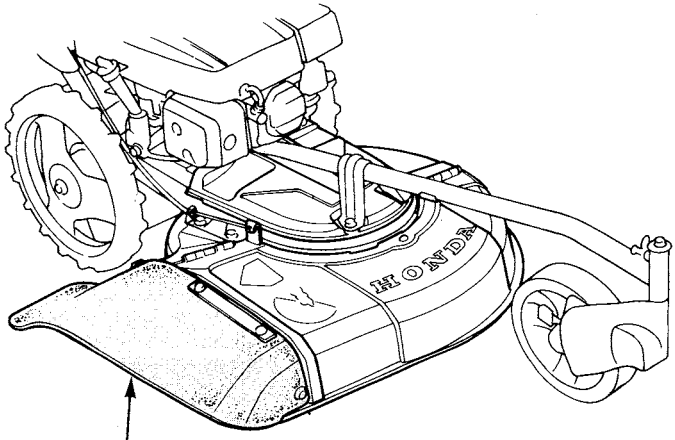
リヤ プロテクタ ラバー、サイド プロテクタ ラバーの点検

ラバーに損傷がなく正しく取り付けられているか点検してください。
損傷している時には交換してください。

注意 プロテクタ類を取り付けない、または損傷したままで刈取作業をしないでください。作業範囲内に石等の異物があると、刈刃の回転力により石飛び等による危険があります。



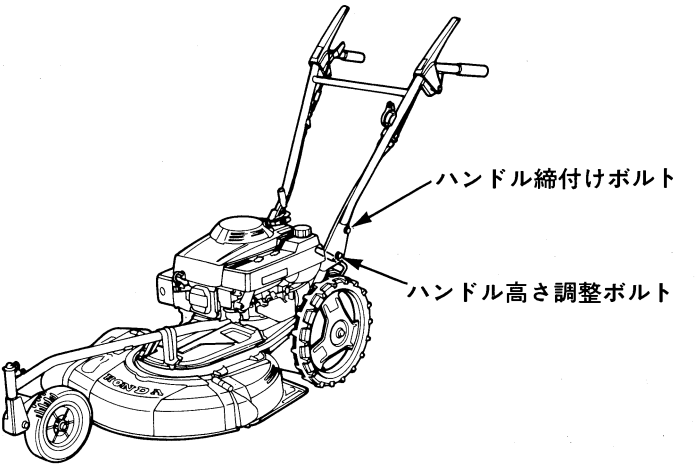
リヤ プロテクタ ラバー



サイド プロテクタ ラバー

各部の締付け点検

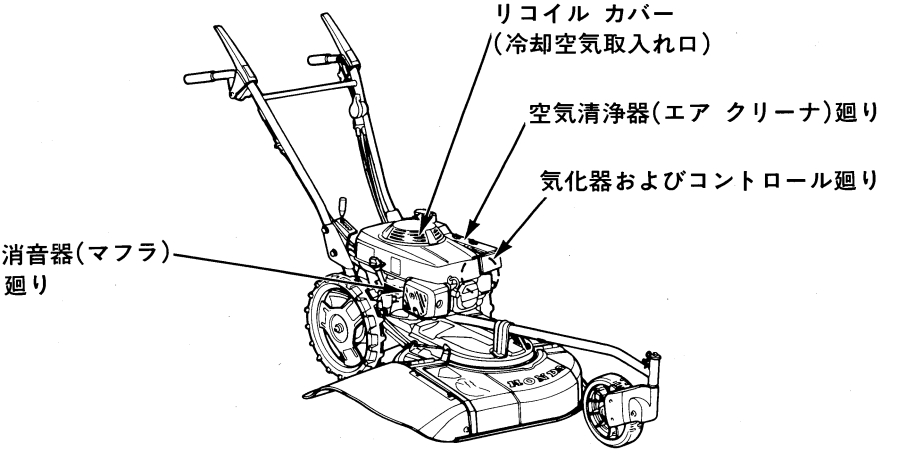
・ハンドル締付ボルトのゆるみはないですか。



各部の清掃点検

草刈機(特に下記指定箇所)に刈った草やホコリが付着していないか点検してください。

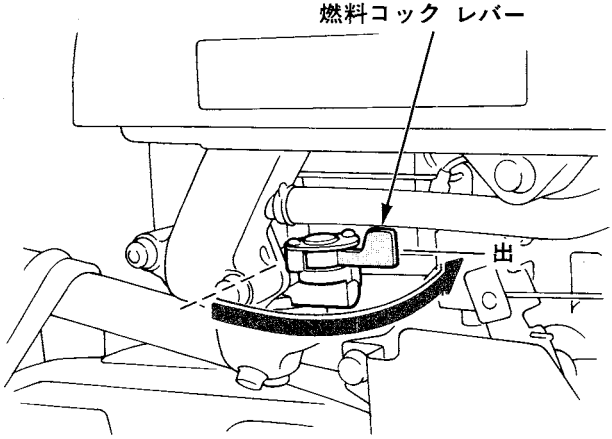
汚れている時には十分清掃してください。



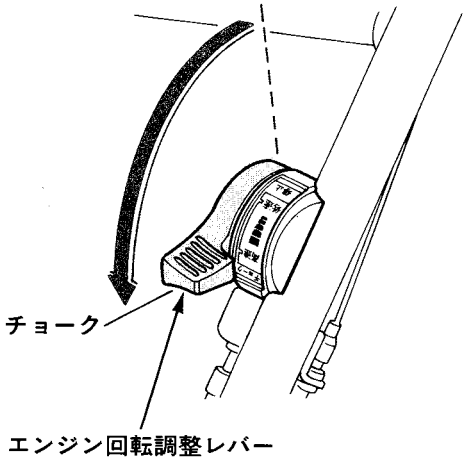
エンジンのかけかた

注意　走行固定レバーが解除されていることを確認してください。

1．燃料コック レバーを**“出”**に合わせます。

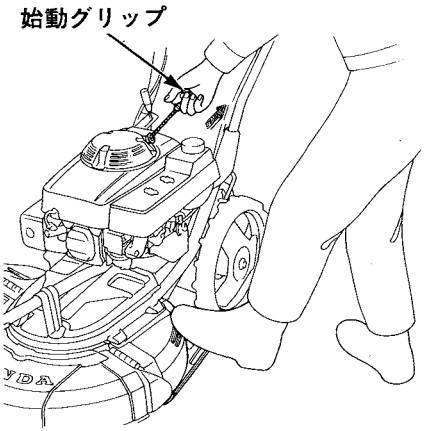


2．エンジン回転調整レバーを**“チョーク”**の位置に合わせます。
エンジンがあたたまっている時、または気温が高い時には**“低速”**の位置に合わせます。



3．始動グリップを引いて重くなる位置をさがし、勢いよく引きます。

注意
- 始動グリップは手を添えて静かに戻してください。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

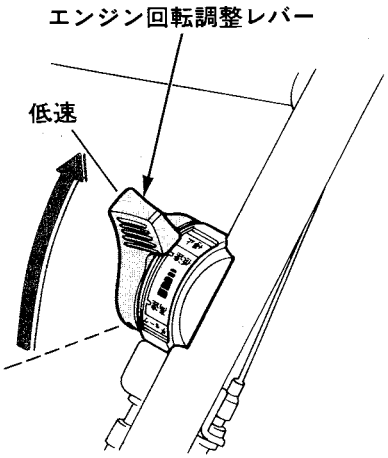


- エンジンの始動は、草刈機が安定する平坦な場所で行ってください。
- 始動グリップを引く時、後方に人がいないか確認してください。

4．２～３分間暖機運転を行います。

エンジン回転が安定したら、エンジン回転調整レバーを**"低速"**にします。

- 暖気運転を行うことは、エンジン各部にオイルをゆきわたらせ、エンジンの寿命を長持ちさせます。



運　転　操　作　の　し　か　た

1 エンジン始動

21頁のエンジン始動に従ってエンジンを始動します。

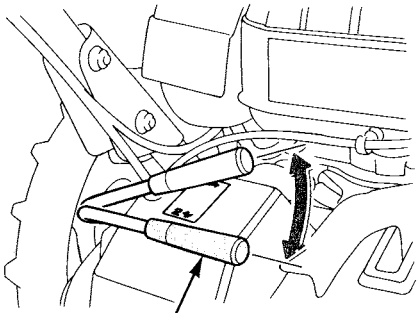
2 運転操作

1．変速レバー

使用したい位置に変速してください。

注意

・作業中に変速するときは、必ず走行クラッチ レバーを〝止〟にしてから操作してください。
・走行中または、足で操作すると、変速しなかったり、故障の原因になる事があります。絶対に行わないでください。

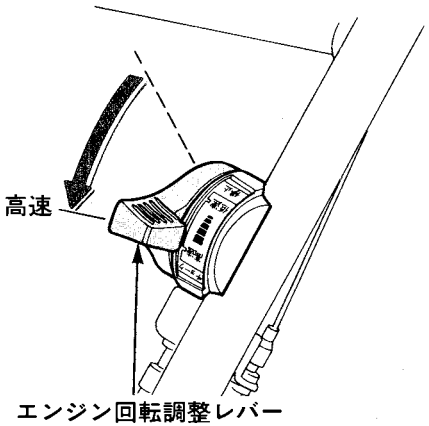


2．エンジン回転調整レバー

エンジン回転調整レバーを“高速”にします。

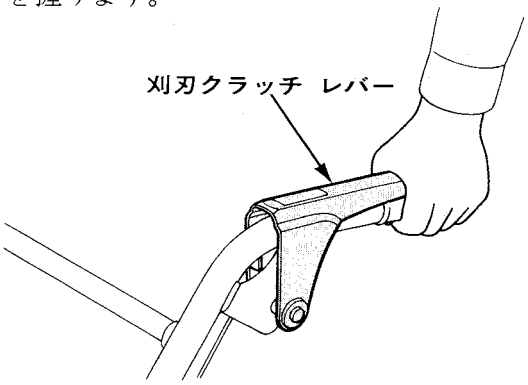
注意

・草刈機からはなれる時は必ずエンジン回転調整レバーを“停止”位置にしてください。



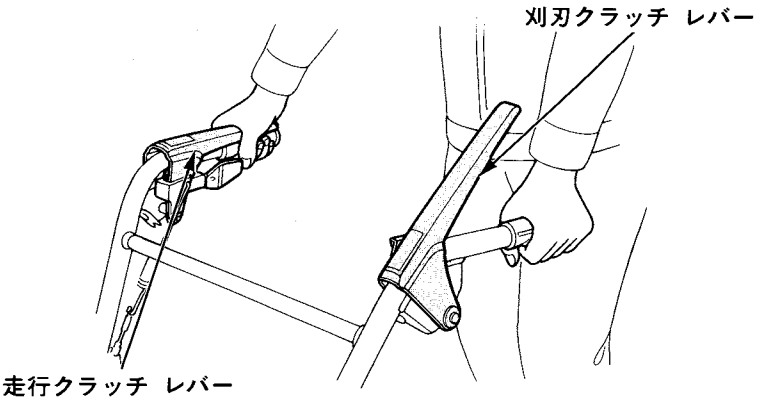
3．刈刃クラッチ レバー

刈刃クラッチ レバーを握ります。



4．走行クラッチ レバー

走行クラッチ レバーを握ります。



・刈取り作業の時は、刈刃クラッチ レバーを先に操作してください。

・移動の時は、走行クラッチ レバーのみ操作してくさい。

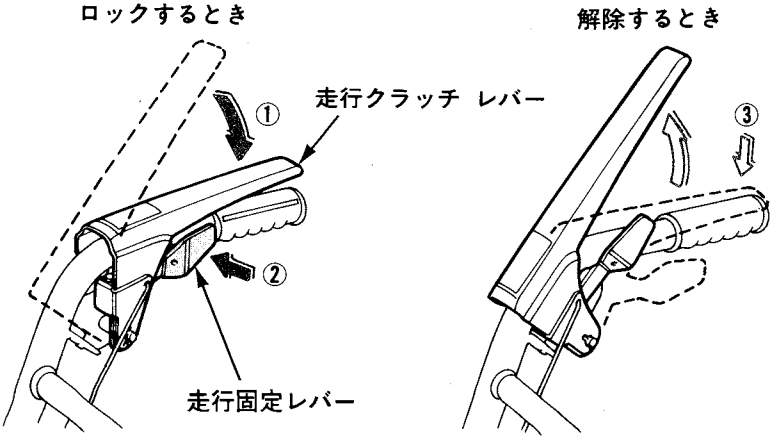
●走行クラッチ レバー固定方法

○固定するとき

走行クラッチ レバーを握った状態で①､走行固定レバーを外側へ押し込みながら②走行クラッチ レバーから手を離します。

○解除するとき

走行クラッチ レバーを握ってください③。



3 刈取り作業

1．刈取り高さの調整

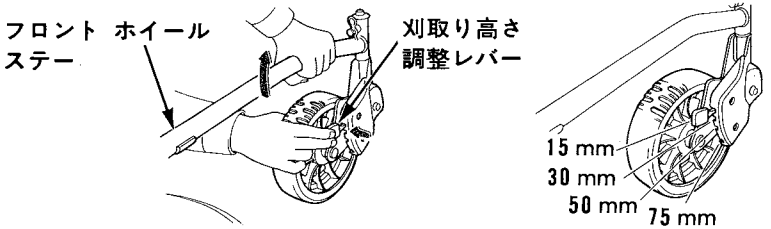
刈取り高さ調整レバーにより4段階(15～75mm)まで調整ができます。1段――15mm、2段―30mm、3段―50mm、4段―75mm

注意
- 刈取り高さ調整は前側、後側とも同じ位置にしてください。本機が不安定になったり、仕上がりが不均一になります。
- 調整は必ずエンジンを止めて行ってください。

前側(前車輪)

フロント ホイール スティを片手で少し持ち上げてから刈りたい高さにレバーで調整してください。

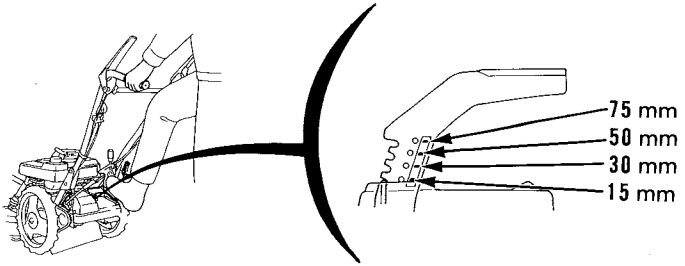
注意 前車輪が地面に付いている状態で高さ調整を行うと、本機の重みで急に最下段まで下がり危険です。必ずフロント ホイール ステーを持ち上げてから行ってください。



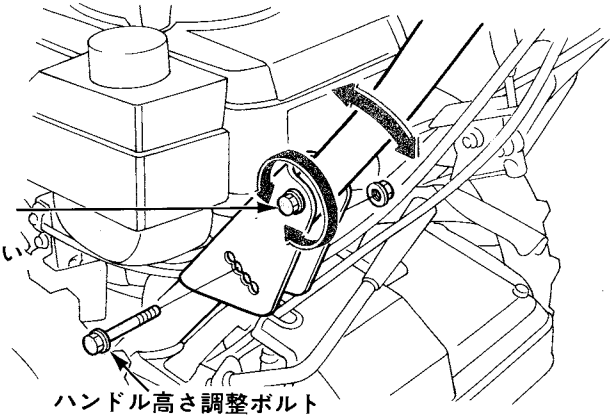
後側

ハンドルを両手で支え、刈取り高さ調整レバーを踏み込み、ハンドルを上下に動かし高さを調整してください。

注意
- 調整を行うときは、必ずハンドルを両手で支えてから行ってください。レバーのみで行うと急に最下段まで下り危険です。
- 斜面等、足元の不安定な場所では操作しないでください。



2．ハンドル高さの調整



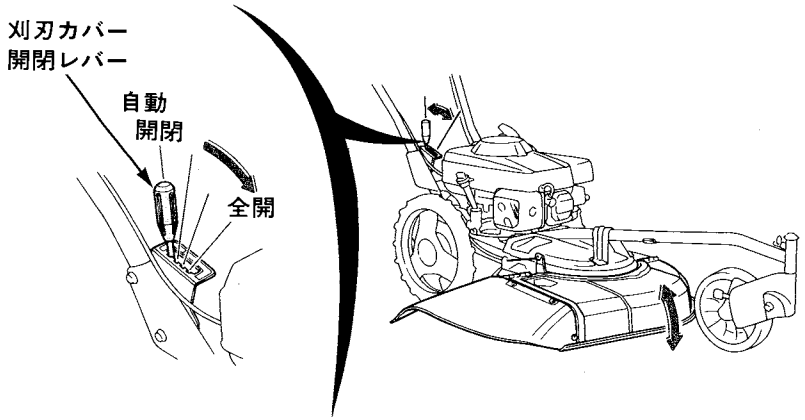
3．刈刃カバー開閉の調整

通常作業では“**自動開閉(閉)**”の位置で使用してください。

極度に柔かい密生草や放出性が悪い場合に使用してください。

注意 ・ハウジングを開けて使用するときは、石等が飛びやすくなり危険ですので周囲には十分注意してください。

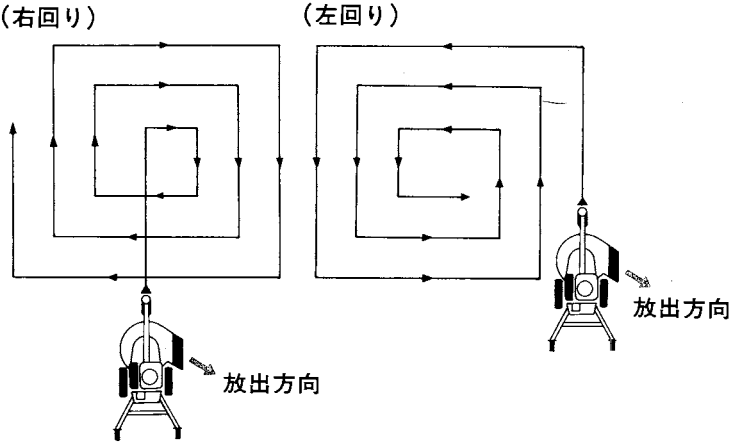
短い草をきれいに仕上げる時は、“**自動開閉(閉)**”の位置で行ってください。



・刈取り作業はエンジン回転を落とさず行うことが重要です。下記の要領を参考にして、草の種類、草地条件に適した刈りかたをしてください。

〈刈取りパターン〉

刈取った草の放出性をよりよくするため、次のような刈りかたをおすすめします。

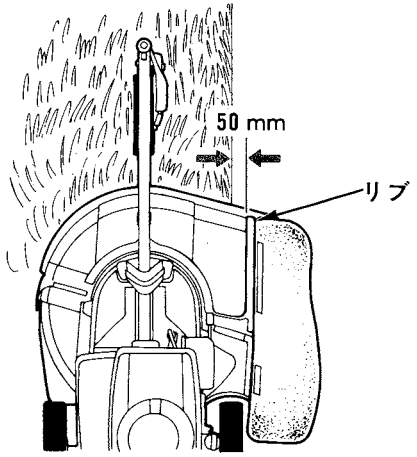


・木の下、垣根わきなどで草刈りは刈刃クラッチ レバーのみを握り、手押し刈りを行います。

〈刈取りの目安〉

ハウジング右側のリブが刈刃巾になっています。

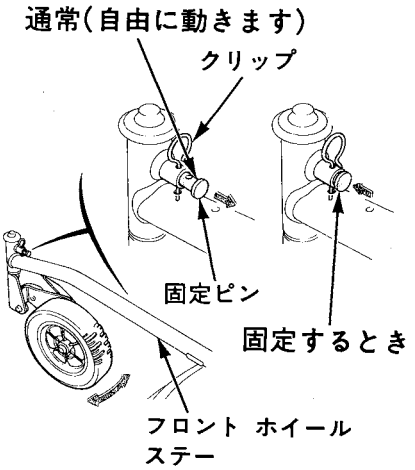
50mm ぐらい内側を刈取り目安としてください。



〈斜　面〉

・斜面で使用するときは、前輪が左右に動かないように車輪を固定して使用してください。

・固定するとき…前輪をフロント ホイール ステー真下の位置にして、クリップを抜き固定ピンを押し込んでください。
ピンが入らないときは前輪を左右に少し移動しながら入れてください。
クリップを確実に穴に入れてください。

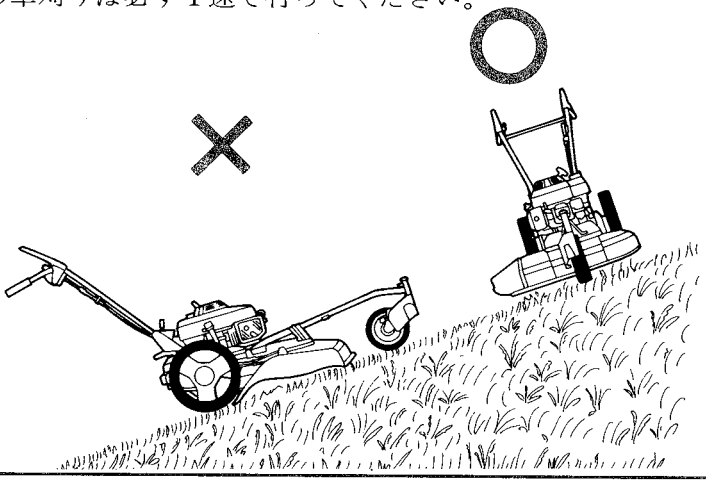


・斜面での草刈りは上下方向ではなく、横方向(等高線方向)に行ってください。

・斜面上での方向転換は十分注意を払ってください。

・20°以上の斜面では草刈機を使用しないでください。

・斜面での草刈りは必ず１速で行ってください。



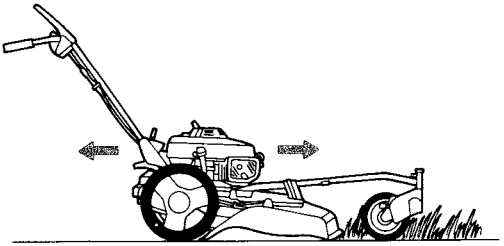
〈起　伏〉

・起伏の多い所での草刈りは十分に速度を落とし、足もとに注意してハンドルをしっかりと握り作業してください。

●濡れ草や軟らかい密生した草でエンジン回転が下がる時には、次のいずれかの方法により作業を行ってください。

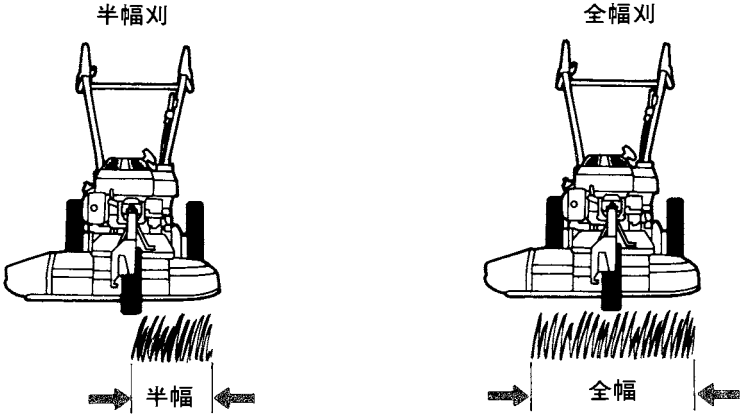
・走行を停止し、エンジン回転の回復後、再度作業を行う。

・エンジン回転が低下しない車速で作業を行う。



・草の条件に応じて刈幅を狭ばめます。

（例）

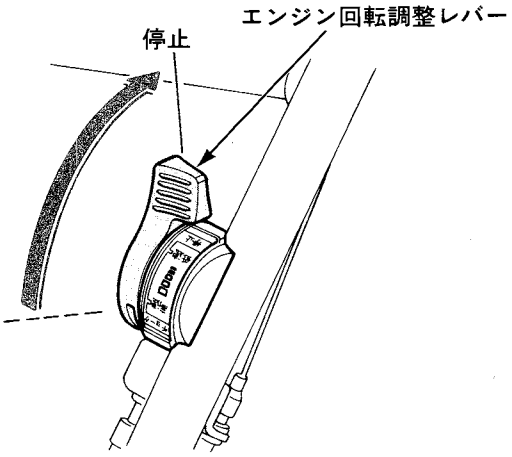


・刈取り高さを高くします。（25頁参照）

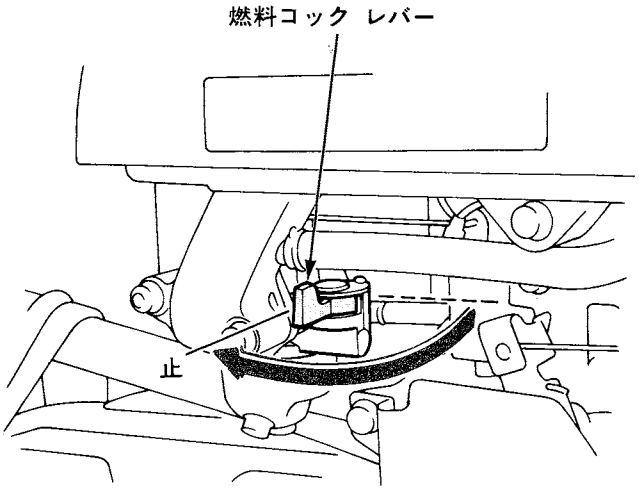
エンジンのとめかた

1．走行クラッチ レバーと刈刃クラッチ レバーをはなします。

2．エンジン回転調整レバーを**“停止”**にします。



3．燃料コック レバーを**“止”**にします。

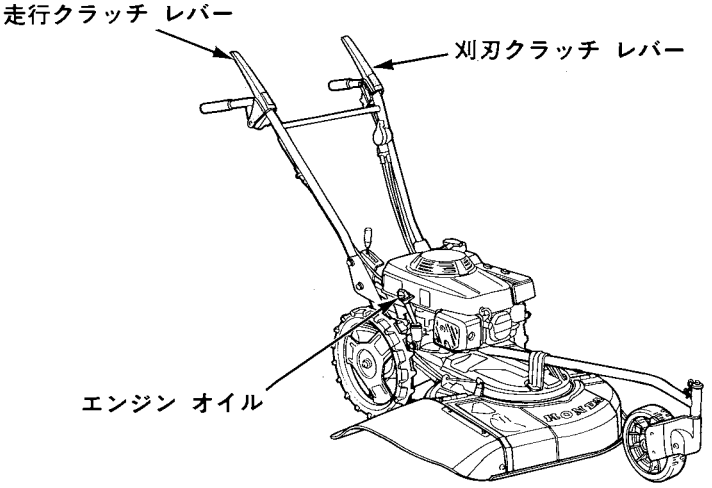


定期手入れを行いましょう

作業前点検

いつも安心してご使用していただくためには作業前の点検、整備が必要です。
忘れずに必ず行ってください。

- 各部の清掃……ベルト カバー・リコイル カバー、マフラ、エキゾースト パイプ、気化器及びコントロール廻りに刈取った草やホコリが付着してないか
- 各部の締付け……ゆるみ、がたはないか(特に刈刃まわり)
- エンジン オイル ……規定量入っているか
  洩れはないか
- 空気清浄器……よごれていないか
- サイド プロテクタ ラバー
  リヤ プロテクタ ラバー……装着状態・損傷はないか
- ガソリン……十分あるか
- 刈刃クラッチ レバー ……作動は良好か
- 走行クラッチ レバー ……作動は良好か
- 変速レバー……作動は良好か
- 異常個所……前回の刈取りで悪かった所はないか
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきました草刈機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時間※		作業前点検	初回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間運転毎又は1年に1回
エンジン オイル	点検	○				
	交換		○		○	
空気清浄器 (エア クリーナ)	点検	○				
	清掃			○ 〈注1〉		
刈刃締付ボルト 刈刃ホルダ締付ボルト 刈刃状態	点検	○				
サイドプロテクタ ラバー リヤ プロテクタ ラバー	点検	○				
各部の清掃		○				
刈刃ベルト	点検 調整				○ 〈注2〉	
刈刃クラッチ ワイヤ	点検 調整				○	
エンジン回転調整ワイヤ	点検 調整				○ 〈注2〉	
走行クラッチ ワイヤ	点検 調整				○	
ハウジング ワイヤ	点検 調整				○	
点火プラグ	点検 清掃				○	
吸入・排気弁すき間	点検 調整					○ 〈注2〉
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃					○ 〈注2〉
燃料チューブ	交換	3 年 毎 〈注2〉				

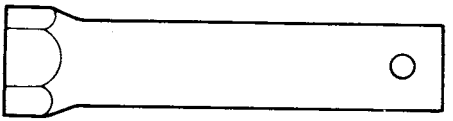
※点検時間は作業の累積時間です。

〈注1〉ホコリの多い所で使用した場合、空気清浄器の清掃は、10時間毎又は1日1回行ってください。

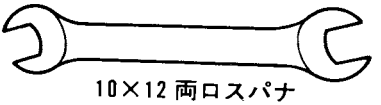
〈注2〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

携帯工具

工具は、点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



プラグレンチ



10×12 両口スパナ

●エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：20時間目、以後：100時間運転毎

《推奨オイル》

ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)

②ウルトラ—U<2輪車用>(SAE10W—30)

またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W—30オイルをご使用ください。

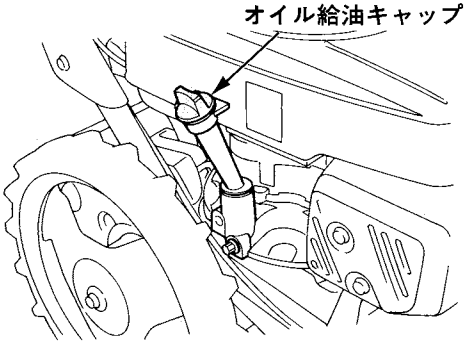
注意

- 低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラ—U<2輪車用>SAE10W—30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時(気温－15℃以下)では、API分類SE、SF級相当のSAE 5 W—30のオイルをご使用ください。

《規定量》 0.65ℓ

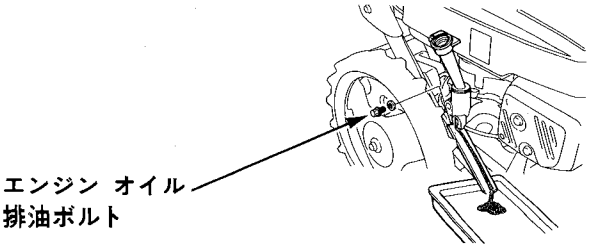
《交換のしかた》

1．オイル給油キャップを外します。

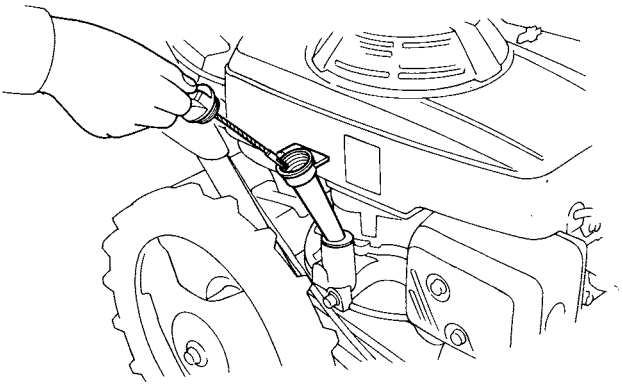


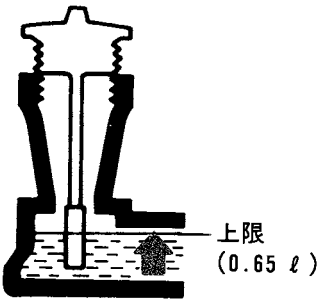
2．エンジン オイル排油ボルトを外して、オイルを抜きます。

完全に抜けたらエンジン オイル排油ボルトを確実に締付けてください。



3．エンジン オイルを給油キャップのレベル ゲージで確認しながら上限まで注入します。（給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。）





4．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

注意

・エンジン停止直後は、エンジン本体、油温が高くなっていますので、手でさわれる温度になってからオイル交換を行ってください。やけどをする恐れがあります。
・オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
・給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがにじみ出ることがあります。

空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

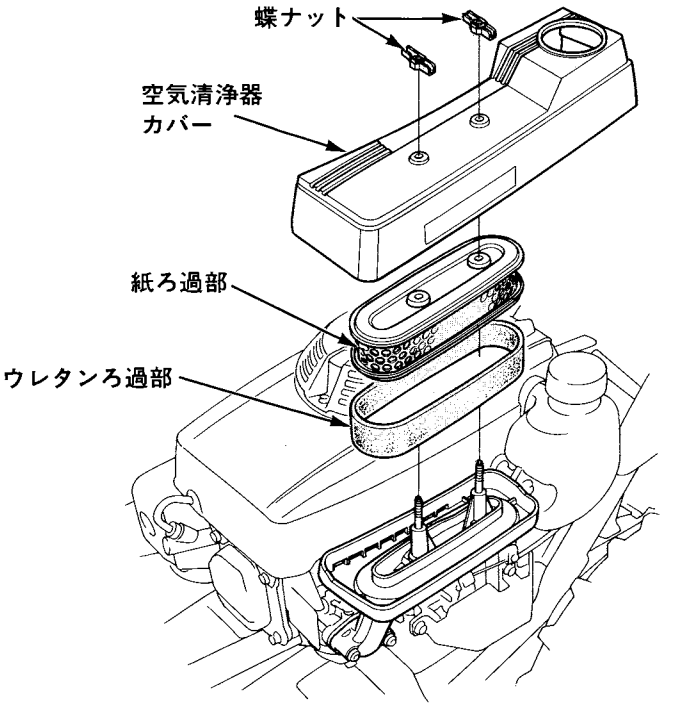
空気清浄器が目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時間》

50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間毎。

1.蝶ナットをゆるめ、空気清浄器カバーを取外します。



2.ウレタンのろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるか、又はよく絞って乾かします。次にオイルに浸した後固く絞ってから取付けます。

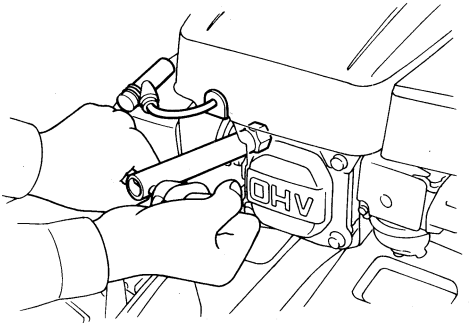
3.紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、又は軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。

点火プラグの点検、清掃

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

100時間運転毎

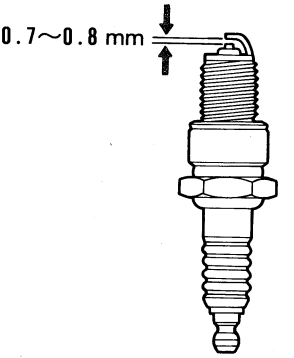


《清掃のしかた》

1．プラグ レンチで点火プラグを取り外します。

2．プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

・プラグ クリーナが無いときはワイヤ ブラシで汚れを落してください。



《調整》

・側方電極をつめ、火花すき間を0.7～0.8mmに調整します。

《標準プラグ》

BP5ES(NGK)

W16EP-U(ND)

注意

・標準以外のプラグを使用しないでください。
・エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないように注意してください。
・プラグの取り付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。

刈刃の交換、修正

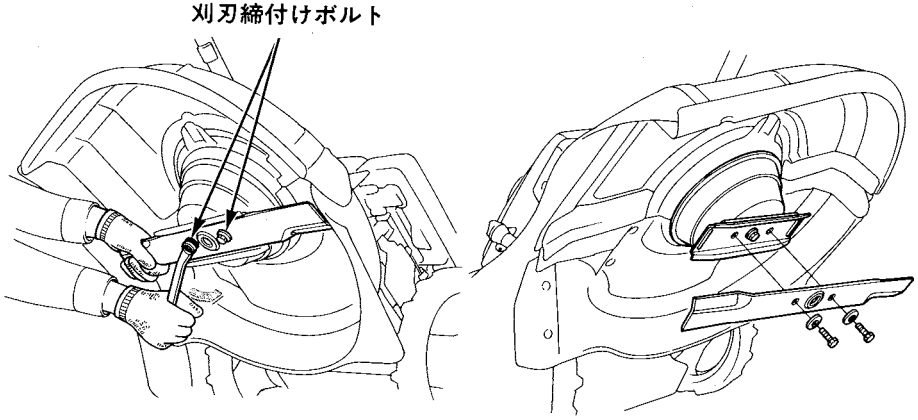
注意

・刈刃の取外し、取付け、修正、交換等の作業は適切な工具と整備技術をお持ちの方が実施してください。
・刈刃の点検、修正、交換時の作業を行う時は必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。
・刈刃を交換する場合、ホンダ純正部品をご使用ください。
・作業をする時は手をすべらさないように十分注意してください。

1．刈刃の外しかた

～1.芝刈機を傾斜させます。(17頁参照)

～2.丈夫な皮手袋などをした手で、刈刃の先端をしっかりとささえ、14mmのレンチで刈刃締付けボルトをゆるめます。



注意

・刈刃ボルトは5.0～6.0kg-mのトルクで締め付けられています。
ボルトが外れない場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

2．刈刃の修正

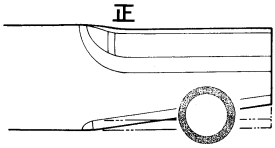
注意　作業をする時は手ですべらさないように十分注意してください。

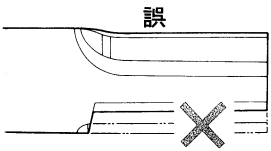
～1.刈刃を取外します。(38頁参照)

～2.以下の要領で刈刃を研摩してください。

・刈刃を研摩する時は、刈刃をしっかりと保持してください。

・刈刃を元の刃と平行に研摩しますと、折損の原因となります。
下図のように研摩してください。

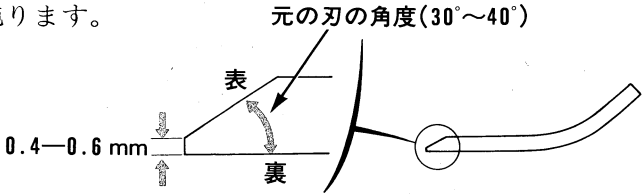




・刈刃のバランスをくずさないように両側の刃を同量研摩してください。

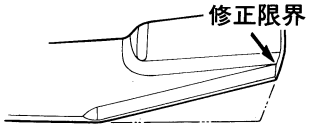
・刈刃を研摩する時は元の刃の角度を維持してください。

・刈先には0.4～0.6mm 程度の平らな部分を残しておいてください。
カミソリのように刃先をとがらせますと、すぐに刃先が摩耗し切れ味が鈍ります。

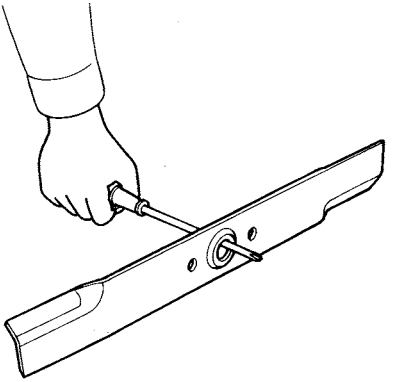


注意　グラインダーを使用する時は保護具等を付けて、安全に注意して使ってください。

・刃先が下の図の様になったら、新しい刈刃と交換してください。



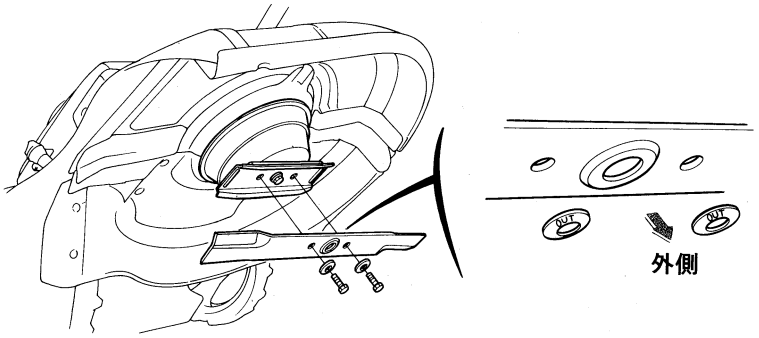
・研摩後、ドライバを使って刈刃のバランスをテストしてください。左右どちらかがわずかに下ったら、下った方の刃の部分を再度研摩してください。バランスが取れない場合は刈刃を交換してください。



注意　刈刃のバランスがとれていないと、異常振動が生じ、刈刃カバーを破損する恐れがあります。

3．刈刃の取付け

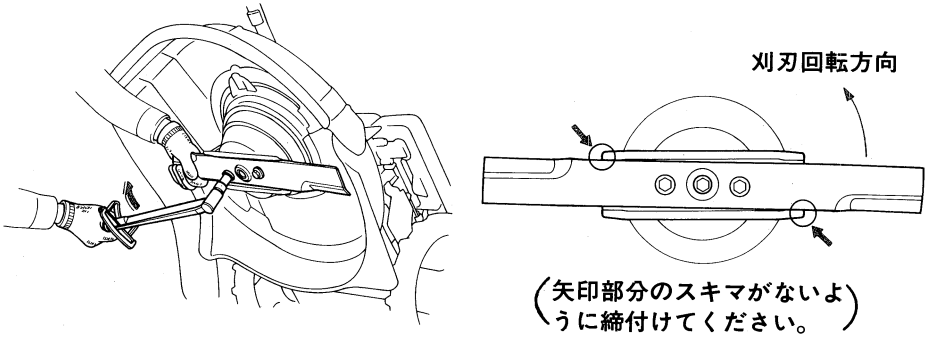
1．刈刃の取付けは下図の通りです。



注意　刈刃ボルトは専用ボルトです。他の種類のボルトを代用しないでください。

2．丈夫な皮手袋などをした手で刈刃の先端をしっかりささえ、刈刃締付けボルトをトルク レンチで締付けます。

指定トルク：5.0～6.0kg-m



3．刈刃を取付けてから、刈刃を手で回して刈刃レバーと刈刃が接触しないことを確認してください。

接触する場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

曲った刈刃は破損など思わぬ事故を招きます。

刈刃クラッチ ワイヤの点検、調整

刈刃クラッチ ワイヤの調整が完全でないと、ベルトがすべったり、刈刃が停止しなくなることがあります。

《点検、調整時期》

100時間運転毎

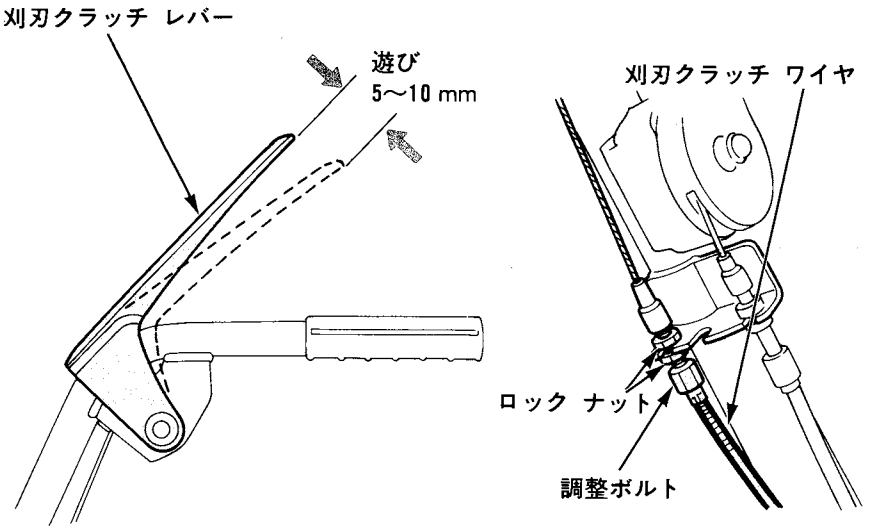
《点検》

刈刃クラッチ レバー先端の遊びが5～10mmになっていれば正常です。

《調整》

1．ロック ナットをゆるめ、調整ボルトをまわして調整してください。

2．調整後ロック ナットを確実に締付けます。



走行クラッチ ワイヤの点検、調整

走行クラッチ ワイヤの調整が完全でないと、クラッチが切れなくなったり、すべったりすることがあります。

《点検、調整時期》

100時間運転毎

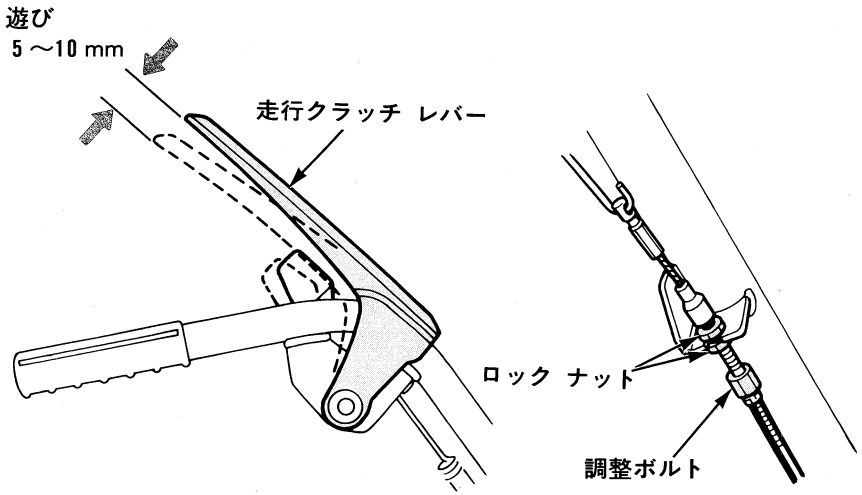
《点検》

走行クラッチ レバー先端の遊びが5～10mmになっていれば正常です。

《調整》

1．ロック ナットをゆるめ、調整ボルトをまわして規定寸法になるように調整してください。

2．調整後ロック ナットを確実に締付けます。



ハウジング ワイヤの点検、調整

《点検、調整時期》

100時間運転毎

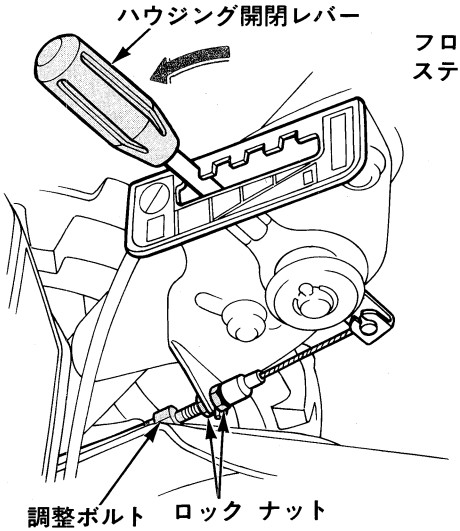
《点検》

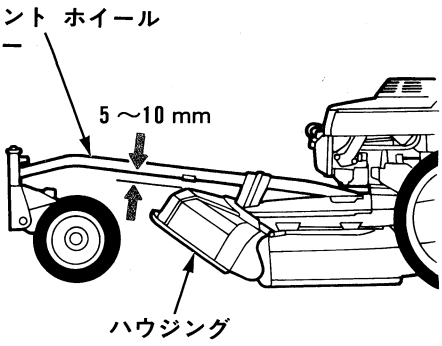
刈刃カバー開閉レバーを**"全開"**の位置にして、ハウジングとフロント ホイール スティのスキマが5～10mmになっていれば正常です。

《調整》

1．ロック ナットをゆるめ、調整ボルトをまわして調整してください。

2．調整後、ロック ナットを確実に締付けます。





長期間使用しない時の手入れ

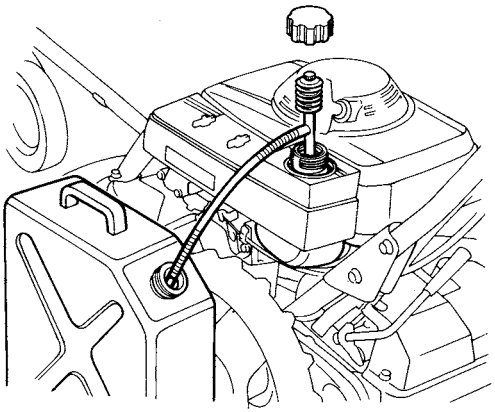
★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

エンジンを停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ キャップをプラグから外してください。

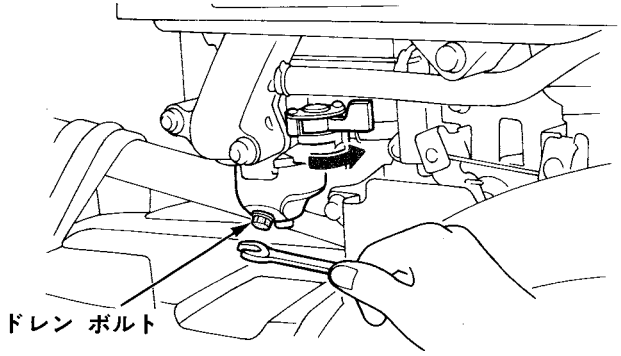
1 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜いてください。

〈抜き方〉

1. 燃料タンク キャップを取り外し、タンク内のガソリンを容器に受けてください。



2. 気化器内のガソリンは燃料コック レバーを"出"にしてドレン ボルトをゆるめ、容器に受けてください。



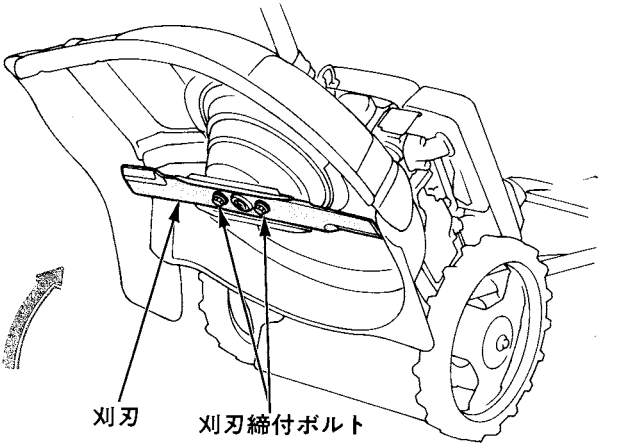
3. 完全に燃料が抜けたらドレン ボルトを元の状態に戻し、燃料コック レバーを"止"にしてください。

注意
- 燃料を抜く時は火気厳禁
- 風通しの良い場所で行ってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

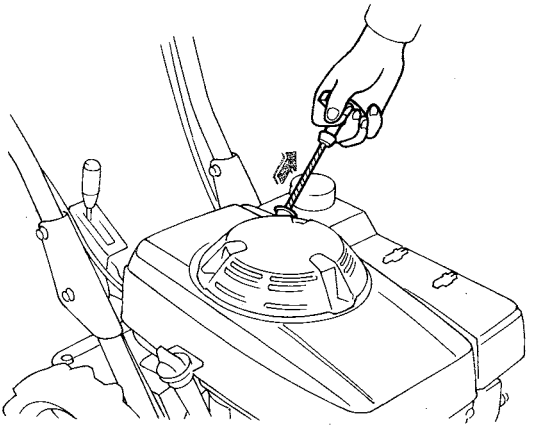
2 エンジン オイルを交換してください。（交換のしかたは34頁参照）

3 空気清浄器を清掃してください。（清掃のしかたは36頁参照）

4 刈刃及び各部を清掃し、締付け点検をしてください。刈刃にエンジン オイルを塗布してください。



5 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



6 屋根のある場所で保管してください。

故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが草刈機を長持ちさせる秘けつです。

始動しない時は次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか？
- エンジン オイルは規定量ありますか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

この点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またウエスで完全にふきとってから行ってください。

プラグを取り外し、プラグ キャップに取り付けプラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ キャップ以外には触れないでください。)、エンジン回転調整レバーを**〝低速〟**の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意　・この点検は風通しのよい場所で行ってください。

- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

〜〜〜〜〜〜少し時間をおいて
もう一度確かめましょう〜〜〜〜〜〜

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

主　要　諸　元

名称（タイプ）	ホンダ草刈機 UM21
型　　式	KAF

エ　ン　ジ　ン	GXV160
形　　式	単気筒、4サイクル、頭上弁式
排　気　量	163 cm³
内径×行程	68×45 mm
点火時期	上死点前20°
点火方式	トランジスタ マグネト点火
オイル容量	0.65 ℓ
燃料タンク容量	2.0 ℓ
点火プラグ	BP5ES（NGK） W16EP—U（ND）

フ　レ　ー　ム

全　　長	1800 mm
全　　幅	760 mm
全　　高	1080 mm
刈　　幅	530 mm
刈取り高さ	15～75 mm（4段階）
全装備重量	59 kg
変速段数	前進2段
車　　速	1速：2.0km/h　　2速：3.0km/h

主要諸元は製品改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。